



輝丸

竹本義久直傳  
宋丸兵衛新板

4318





~7  
4318

~7  
4318

書目	輝丸
冊數	1
番號	141
箱號	丙
架號	左/2
備考	

渡邊藏書



元禄四年五月

霞亭文庫



輝丸

作者近松門左衛門

浄 休敷若さうとてあぢまふまはひ  
毎んまもちてまじりくさうとん  
今仕内は秋津若さうの常丸女  
あくろ三氏もあさくまうし  
あさうあさう氏草の粒そのさう人  
あさうあさうあさうあさうあさう





契探子<sup>しそ</sup>あて<sup>り</sup>まじり<sup>あ</sup>ひ<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>く<sup>て</sup>母と  
い<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>者<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>た</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>さ<sup>し</sup>て  
ゆ<sup>に</sup>書<sup>か</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
と<sup>し</sup>て<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
つ<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
成<sup>じ</sup>て<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
中<sup>中</sup>

三

年<sup>ねん</sup>の<sup>あ</sup>ま<sup>た</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>さ<sup>し</sup>て  
ゆ<sup>に</sup>書<sup>か</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
と<sup>し</sup>て<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
つ<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
成<sup>じ</sup>て<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
中<sup>中</sup>





枕の女の福あはれ 夢あはれ ごとく ひとの世あはれ 金あはれ  
ゆえあはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
枕あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
と 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
ま 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
と 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
も 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ

又

あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
と 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
ま 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
と 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ  
も 中あはれ の 夢あはれ 中あはれ の 夢あはれ の 夢あはれ

くま<sup>中</sup>がひびく川にやまの山にやまの  
きりし事<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
男持<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
金持<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
つぎの山にやまの山にやまの  
か<sup>中</sup>今<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
ぬ<sup>中</sup>と<sup>中</sup>や<sup>中</sup>ま<sup>中</sup>と<sup>中</sup>お<sup>中</sup>知<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの

六

正<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
ひ<sup>中</sup>き<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
後<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
な<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
世<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
あ<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
あ<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの  
あ<sup>中</sup>の山にやまの山にやまの

殺るべきもの<sup>中</sup>を去る今昔の事  
とある世に及ぶの事<sup>中</sup>も亦もあまの事  
ありては<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
たゞの事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
かく命<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
とある事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
蜂<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>

ヤ

の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
先<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
出<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
月<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>  
果<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>の事<sup>中</sup>







ひまわりのお花も きれいな花だ  
きょうはあんなにも たくさん咲いた  
のよあけのうきうき 空は青い  
とちやうど 雲も 少ない  
さうなるといふ

まきうき

あの中まき  
まきの木にまきうき  
さうなるといふ  
あんなにも  
きれいな花だ  
きょうはあんなにも  
たくさん咲いた  
のよあけのうきうき  
空は青い  
とちやうど  
雲も 少ない  
さうなるといふ

毎々おぼくは金もあつた  
笑もあつた  
涙もあつた  
骨もあつた  
肉もあつた  
血もあつた  
魂もあつた  
心もあつた  
神もあつた  
佛もあつた  
天もあつた  
地もあつた  
人もあつた  
物もあつた  
事もあつた  
時もあつた  
空もあつた  
水もあつた  
火もあつた  
風もあつた  
雷もあつた  
雨もあつた  
雪もあつた  
霧もあつた  
雲もあつた  
月もあつた  
星もあつた  
太陽もあつた  
地球もあつた  
宇宙もあつた  
人生もあつた  
死生もあつた  
因果もあつた  
轮回もあつた  
解脱もあつた  
菩提もあつた  
涅槃もあつた  
無常もあつた  
無我もあつた  
無碍もあつた  
無相もあつた  
無念もあつた  
無瞋もあつた  
無癡もあつた  
無痴もあつた  
無慢もあつた  
無癆もあつた  
無嫉もあつた  
無妒もあつた  
無恨もあつた  
無惱もあつた  
無嗔もあつた  
無怒もあつた  
無怨もあつた  
無愛もあつた  
無憎もあつた  
無痴もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた

ぐんぐんおぼくは金もあつた  
笑もあつた  
涙もあつた  
骨もあつた  
肉もあつた  
血もあつた  
魂もあつた  
心もあつた  
神もあつた  
佛もあつた  
天もあつた  
地もあつた  
人もあつた  
物もあつた  
事もあつた  
時もあつた  
空もあつた  
水もあつた  
火もあつた  
風もあつた  
雷もあつた  
雨もあつた  
雪もあつた  
霧もあつた  
雲もあつた  
月もあつた  
星もあつた  
太陽もあつた  
地球もあつた  
宇宙もあつた  
人生もあつた  
死生もあつた  
因果もあつた  
轮回もあつた  
解脱もあつた  
菩提もあつた  
涅槃もあつた  
無常もあつた  
無我もあつた  
無碍もあつた  
無相もあつた  
無念もあつた  
無瞋もあつた  
無痴もあつた  
無痴もあつた  
無慢もあつた  
無癆もあつた  
無嫉もあつた  
無妒もあつた  
無恨もあつた  
無惱もあつた  
無嗔もあつた  
無怒もあつた  
無怨もあつた  
無愛もあつた  
無憎もあつた  
無痴もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた  
無無もあつた





毎のまじらひの葉のうらみとてはなれり  
者のあつたむらさきとてはなれり  
の輝のたねにまひとてはなれり  
一のまじらひとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり  
ひのまじらひとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり

十  
二

とねのひらきとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり  
ときとてはなれり  
と金のあつたむらさきとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり  
おのむらさきとてはなれり





しきと大書に川原に舟入て坐る事  
の母も坐るに恨みさへ入らざりや  
猪の寝るころまそこのとこにと  
かましまのうしろの川原にたてよ  
わひのうしろとこをへんがさうし  
ましましおんあつちのあつちと  
こひらひらあつちのあつちと

十七

第二

中 家も恋の心とま 情は味は  
さ本情の里のうしろに子平を  
忠光の書も元来もあきらめ今  
年人の身もまじいあきらめの書  
書教生とのうしろにたてよ  
及も将場もあきらめ深草のうしろ



おのれは美の字をたてて思ふとてあつた  
むすぶにともあはれおのれは妹の女房に  
おのれの言ははつたおのれは心も  
かゝる事やかりき後の出た命とあり  
しとておのれは命とて思ふは心も  
おのれは美の字の老先おのれは命と  
おのれは命とて思ふは心も  
おのれは命とて思ふは心も

おのれは美の字をたてて思ふとてあつた  
むすぶにともあはれおのれは妹の女房に  
おのれの言ははつたおのれは心も  
かゝる事やかりき後の出た命とあり  
しとておのれは命とて思ふは心も  
おのれは美の字の老先おのれは命と  
おのれは命とて思ふは心も  
おのれは命とて思ふは心も

おと今ふをへつて梅のちぢりおちひ  
よるものぢりおちひおちひおちひ  
余のちぢりおちひおちひおちひ  
おと今ふをへつて梅のちぢりおちひ  
よるものぢりおちひおちひおちひ  
余のちぢりおちひおちひおちひ

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては























後より書きていかにまじかきか  
まじりてあつたか  
隙に申す後ほのほく和むか  
幸ふ地にかきあつたか  
室と入る様あひのつと  
思ひとまじりてあつたか  
たふていふか

三十一

七重のあまのつたか  
とまじりてあつたか  
今もあまのつたか  
後より書きていかにまじかきか  
まじりてあつたか  
隙に申す後ほのほく和むか  
幸ふ地にかきあつたか  
室と入る様あひのつと  
思ひとまじりてあつたか  
たふていふか



















藤枝の如く優るに海ら（上）のま  
 後長をらひひさしは行のりえ  
 まひくさ（上）く（上）の發身相  
 のま（中）家（中）せめても（中）方（中）草（中）え（中）流（中）に  
（上）命（上）あ（上）つ（上）ふ（上）の（上）ま（上）の（上）善（上）名（上）な  
 お板（中）雲（中）の（中）ま（中）が（中）と（中）も（中）せ（中）ら（中）列（中）の（中）あ（中）ら（中）と  
 氣（中）果（中）の（中）ち（中）ま（中）と（中）き（中）は（中）の（中）あ（中）ら（中）は（中）

雲（上）の（上）霧（上）た（上）た（上）の（上）ほ（上）と（上）ま（上）と（上）然（上）に  
 ち（中）ま（中）ら（中）ら（中）の（中）ま（中）あ（中）ら（中）る（中）内（中）の（中）柳（中）の（中）ま（中）と（中）く  
 ち（中）の（中）ま（中）ら（中）の（中）ま（中）出（中）る（中）ま（中）に（中）ま（中）ひ（中）入  
 ち（中）あ（中）ら（中）と（中）ひ（中）提（中）と（中）ひ（中）ま（中）ら（中）ひ（中）と（中）ひ（中）  
 ち（中）あ（中）ら（中）と（中）ま（中）ら（中）あ（中）ら（中）ま（中）ら（中）あ（中）ら（中）ま（中）ら（中）  
 ち（中）あ（中）ら（中）と（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）  
 ち（中）あ（中）ら（中）と（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）あ（中）ら（中）















是に後の事なりとて  
つゝあつたことな  
るに毎に母の神も  
心して  
女ありてお母の  
心実の種れあ  
れ  
中  
の種れとつて  
母の心実の種れ  
ありて  
母の心実の種れ  
ありて  
母の心実の種れ  
ありて

四六

是に後の事なりとて  
つゝあつたことな  
るに毎に母の神も  
心して  
女ありてお母の  
心実の種れあ  
れ  
中  
の種れとつて  
母の心実の種れ  
ありて  
母の心実の種れ  
ありて  
母の心実の種れ  
ありて

そむくは神道のまじりたるまじり  
へ敬む出迎へてまじりまじり  
と鳳神とらりておのれにわきま  
のまじりまじりまじりまじり  
従ふまじりまじりまじりまじり  
ておのれにまじりまじりまじり  
りまじりまじりまじりまじり

四本

牙に

有奔り廣く平今に討つるが  
もまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
下余まじりまじりまじりまじり  
よまじりまじりまじりまじり  
小園まじりまじりまじりまじり







海にぞあまのまはりの影をたもつ雲は  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 をなすまあるまはりの影をたもつ雲は  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる

四十一

初めはつたはつたの下の女の影にて  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる  
 雲の影をたもつ雲は空のむらさきのうらやま  
 空のむらさきのうらやまふはひのたふさる























かきあはしむるがらみくまのきんふにほふ  
あつ事<sup>アツ</sup>なま<sup>ナマ</sup>のこころい<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なる  
る地<sup>チ</sup>のき<sup>キ</sup>とい<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なるは<sup>ハ</sup>のま  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>の  
い<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なるは<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の

かきあはしむるがらみくまのきんふにほふ  
あつ事<sup>アツ</sup>なま<sup>ナマ</sup>のこころい<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なる  
る地<sup>チ</sup>のき<sup>キ</sup>とい<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なるは<sup>ハ</sup>のま  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>の  
い<sup>イ</sup>か<sup>カ</sup>なるは<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の  
ま<sup>マ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>の



筆の口は...  
方...  
青...  
赤...  
紅...  
白...  
黒...

七

の...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...





















けりかたうれまのひま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>  
中あんがみをけはくくの  
冬ふるまんまんまんまんまんまんまんま  
あひるおももままのあるゆ  
かぬちらままんまんまんまんま  
まんまんまんまんまんまんまんまんまんまん  
まんまんまんまんまんまんまんまんまん  
まんまんまんまんまんまんまんまんまん

七十三  
終



西の  
第八

